

## 令和6年度 多摩市立諏訪小学校 学校評価書

学校教育目標	
人や自然を愛し、知恵や勇気、強い体を養い、豊かに生きる力をもつ児童を育成する 「かしこく」(確かな学力) 「やさしく」(豊かな心) 「たくましく」(健やかな体)	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
地域の人々「子供たちを大切にしたい」と思う 保護者「子供たちを通わせてよかった」と感じる 教職員「やりがいのある職場」と感じる	
諏訪小学校 コミュニティスクール	全ての子供たち 「学校が楽しい」と感じる
目指す子供像	目指す教師像
・広く学び、深く考える ・共に感じ、認める ・体をきたえ、元気に過ごす	・学校文化の創造を目指し、意欲的に業務を行っている。 ・自己研鑽に励み、特に教師としての資質能力育成のための「基礎基本」を身に付けている。 ・子供たち一人一人に応じた教育活動を行おうとする。

### I 自己評価結果と学校関係者評価の状況

#### (1) 確かな学力の育成

重点目標	探求的な学びの充実を図るべく、個別最適な学びと協働的な学びを推進するとともに、開校30周年に関わる学習を推進する。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
生活科・総合的な学習の時間を中心とした探究的な学びの推進(児童の満足度80%以上)	3	地域素材の教材化等を中心に、自ら関わりながら探究しようとする学びを推進している。	A	夏休みの自由研究は、「自立的な学習」を行う意義を達成できたと捉えている。より大きな成果として捉えてよい。地域との関わりは一層充実したものになってきた。今後も意見交換をしながら活動の質を高めてもらいたい。
カリキュラム・マネジメントを踏まえての「開校30周年に関わる学習」の実施(周年式典での披露)	3	上記の成果を、各学年の特性を生かしながら発表し、その後の活動にも大いに反映された。	A	
平素の学習で身に付けた資質・能力を活用した夏休みの自由研究の実施(児童の実施100%)	3	夏休み前の事前指導を踏まながら、児童一人一人が思いや願いを叶えようと努力した。	B	
評価のまとめ	探究的な学びについては、教員の理解も深まり、その具体化に向けて大きな成果が上がった1年であったと捉えている。周年記念式典での発表もこのことを示すよい機会であった。さらに、子供たちが主体的に取り組むべく、例えば「自ら思いや願いを叶えるため」の学習活動にするための工夫を模索していく。			

#### 【評語について】

自己評価		学校関係者評価		
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上~100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上~90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上~70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

#### (2) 豊かな心の育成

重点目標	自分を律することや、仲間と協調しながら、自他を認めようとする心情と態度を育成し、また学校への愛着をもって地域社会の形成へ参画しようとする。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
仲間が互いを尊重しようとする意識の醸成(年度末実施調査での人権意識が「概ね満足以上80%」)	3	人権意識の涵養はおよそ図れたが、さらに多くの立場の人々に思いを馳せられるようにする。	A	道徳授業地区公開講座では、児童の多様な考えが発表されて驚いた。さらにこれらをどのように扱いながらまとめるか、といった指導力の向上が求められる。これが「多様性」への考え方を一層深めることにつながる。
社会への積極的な関わりを通しての学校や地域への愛着の育成(諸活動への満足度80%以上)	3	生活・総合的な学習の時間を中心、地域へ積極的に働きかけることによって成果を上げられた。	A	
考え、議論する道徳授業の確実な実施(道徳授業地区公開講座時の授業者自己評価「概ね満足」以上80%)	3	学習指導案を何度も練り上げながら、児童が道徳的価値に迫る活動の設定ができてきた。	B	
評価のまとめ	本校教員が平素の指導はもちろんのこと、課題が生じた際に迅速に対応をしようとしていることによその理解を得た。一方で、さらに子供たちを丁寧に観察して実態を把握し、よい適切に対応をしていく大切さも確認できた。改めて、「いじめは絶対に許さない」意味とその具体策を模索していく。			

#### (3) 健やかな体の育成

重点目標	健康かつ安全に生活するための知識や技能を身に付け、これらを生かしながら安心した学校生活を送ろうとする。			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
1日平均の欠席の割合を昨年度6.75%から4%に引き下げるための啓発	3	4.74%まで引き下げられた。今後も生活指導主任や養護教諭を中心に積極的に働きかけていく。	A	体力アップ週間の工夫は、機会選択のための場づくりであり、これは自己徹底能力にもつながる意味ある取組となっている。パラスポーツについては、(2)に位置付ける方が適切である、と捉えられる。安全面に関する項目を設けではどうか。
オリ・パラレガシーを踏まえた授業実践(「誰もが運動欲求をもっていることへの理解した児童が全体の80%以上」)	2	3年生がパラスポーツに取り組む機会を得た。今後さらに多くの学年で取り組めるようにしたい。	B	
教員の体育科学習指導力の向上(児童が「心地よい」動きを体感できたと実感した教員が全体の80%以上)	3	体力アップ週間では、新しい動きを取り入れて体験できる場を設けたので児童の意欲は高まった。	A	
評価のまとめ	欠席率の低減は、目標値には達しなかったが大きな変化であると捉えている。今後さらに日々の取組を確実に行うべく、生活指導特に保健指導における具体的な工夫を行っていく。体育科学習については、運動量の保障や導入時の多様な動きの組み入れなどの工夫を図っていく。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	学校の状況についての積極的な情報公開を行い、地域からの理解と協力を得られるようにするとともに、家庭との連携を図って教育活動の一層の充実を目指す。			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
学校行事の充実(働き方改革を踏まえつつ「変えること」と「維持すること」の検討)	3	運送会の終日実施等、価値ある学校行事については維持ができた。さらに改善を図る。	A	業務の改善を図ることは必須であるが、一方で、今まであることを確實に行ったり、地域との連携に意味を見出して確実に実践したりすることは必要である。校長の指揮の下、教育活動の本来のあり方を考えるべきだと思う。
地域学校協働本部等による人材募集及び人材活用による活動の充実(学校評価アンケート「概ね満足」以上85%)	3	校外学習やスポーツテストへの保護者やボランティアの参加を積極的に募った。	A	
学校運営協議会委員からの意見の学校経営への積極的な反映(適切な協議の場の設定と令和7年度への反映)	3	平素より頂戴する適切な御助言を生かして学校行事等の改善に努めた。	A	
評価のまとめ	「維持すること」と「変えること」との両面を考えていくことは重要である、と再確認をした。地域学校協働本部より「もっと気軽に声をかけて協力を依頼すべき」との助言は有難かった。連携の図り方はさらなる工夫が求められるが、より大きな協力を得られる確認ができたので、今後さらなる工夫ができる、と捉えた。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

改めて 保護者及び地域との連携を図りながら、教育活動を推進していく。来年度は例えば周年行事等がなく、平素の活動を確實に行っていくことが一層重要になる。よって、今年度設定した「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」における具体的な取り組み方を改めて確認し、さらなる充実を図りたい。  
 「確かな学力」—探究的な学びの一層の推進、そのための教科学習等の充実を図りながらのカリキュラムマネジメントの重視及び一人一人への適切な評価のあり方の追究  
 「豊かな心」—引き続いでの「自他を認めようとする心情」の涵養、そのための「多様性」の捉え方に関する確認と全教育活動を通しての友達や教職員、地域の方々等との関わり方への指導の充実  
 「健やかな体」—健康を維持・増進するための確実な指導、運動の機会を充実させるための活動や場の設定の工夫、体育科学習における教員の指導力の向上、そのためのO J Tの推進  
 また、家庭や地域とはさらなる連携を図るための工夫をする。特に、教育活動の様子をさらに積極的に発信しながら理解を求めるとともに、このことを基にしながら協力を得る場を確実に設け、またそのための理解を十分に図っていく。

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月1日

多摩市立諏訪小学校 校長 齋藤 幸之介

公印

# 令和6年度 学校評価書



多摩市立諏訪小学校